

教育システム情報学再考 ～閉じこもる学びについて考える～

柏原 昭博

教育システム情報学会 会長，電気通信大学大学院 情報理工学研究科 教授

学びにとって他者とのコミュニケーションは不可欠であるが，コロナ禍で実施を余儀なくされた遠隔教育を通して，オンラインで教員と学生あるいは学生どうしが効果的にインタラクションを取ることは容易ではないという問題が露呈した．学習支援システム研究では，オンラインコミュニケーションの活性化を様々な側面から試みてきたにも関わらず，コミュニケーションが不活化することはまったくの想定外である．また，コミュニケーションの不活化は，学習者の孤立を加速するとともに，学習者の思考の孤立も引き起こし，学びが閉じこもる傾向を助長してしまうことが強く懸念される．

本講演では，閉じこもる学びの要因を認知面及び情動面に分けて考察するとともに，実効性のある学習・教育支援を可能とするためにどのような支援が求められるのかについて議論する．特に，ソーシャルロボットを用いた情動面からのコミュニケーション支援に焦点を当てる．この議論を通して，今一度教育システム情報学が追究すべき本質的な課題を再考してみたい．

講演者略歴

1989 年 徳島大学大学院 工学研究科情報工学専攻 修士課程修了．

1992 年 大阪大学大学院 基礎工学研究科 博士後期課程修了．
博士（工学）

大阪大学産業科学研究所助手・助教授を経て，現職．学習工学，学習支援システム研究に従事．特に，学びのモデルデザインに興味を持つ．APSCE, IAIED 理事．